

2021 年度浦安キャンパス
大学院学生による
授業評価アンケート実施結果

浦安キャンパス大学院

授業評価アンケート専門委員会

1 アンケートの概要

(1) 目的

浦安キャンパス大学院のファカルティ・ディベロップメント活動の一環として、本学の教育の質的改善に役立てることを目的とし、大学院学生による授業評価アンケートを実施した。

(2) 実施期間

2021年7月5日(月)9:00～7月10日(土)23:59

(3) 実施対象授業科目等

アンケート実施期間中に開講している専任教員が大学院で担当する授業科目(特別演習、特別研究及び履修者2名以下の科目は除く。)のうち、専任教員1人あたり履修登録者数が最多の1科目。

なお、1つの授業科目を複数教員で担当している場合は、当該授業科目の代表教員を授業担当教員とした。

(4) 実施方法

ア アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答した。

イ 教員は、アンケート実施期間中の該当授業においてアンケート回答の時間を設けることができることとした。

(5) 集計結果分析及び授業改善策等について

授業担当教員はアンケート集計値をWebポータルシステムから確認し、集計結果分析及び授業改善策(現状の説明・課題及び改善点・学生向けコメント)を大学院授業評価アンケート専門委員会委員長に提出した。

※ 授業ごとの集計結果分析及び学生向けコメントについては「2 集計結果分析(P.4～15)」のとおり。

(6) アンケート項目

1 あなたはこの授業1回につき、 <u>予習</u> に平均何時間取り組みましたか
3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
2 あなたはこの授業1回につき、 <u>復習</u> に平均何時間取り組みましたか
3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
3 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか
強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない

4	教員の説明は分かりやすかったですか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
5	教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
6	教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
7	この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
8	この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか
	満足 / やや満足 / どちらともいえない / やや不満 / 不満
9	この授業はあなたの大学院入学の目標達成に関してどんな意味を持ちましたか (自由記述)。
10	この授業について改善すべきと考えられる点があったら書いてください (自由記述)。

(7) アンケート実施科目及び回答者数

実施対象科目数：21 科目

回答者数：64 名〔対象者数(履修者数) 106 名〕

研究科	科目名称	氏名	対象者数	回答者数
応用言語学研究科	応用言語学研究法特論	嶋田 珠巳	5	3
応用言語学研究科	応用言語学特論	中川 仁	5	3
応用言語学研究科	日本語教育方法特論	荻原 稚佳子	4	4
応用言語学研究科	日本語教育教材特論	片桐 史尚	3	2
応用言語学研究科	日本語教育学特論	木山 三佳	4	2
応用言語学研究科	日本語学特論	佐々木 文彦	5	3
応用言語学研究科	翻訳技法特論	神崎 龍志	5	3
経済学研究科	ミクロ経済学特論	佐々木 康史	5	4
経済学研究科	実証分析特論	中澤 栄一	4	3
経済学研究科	経済政策特論	宮崎 礼二	12	8
経済学研究科	会計学特論	池田 晋	8	7
経済学研究科	経営学特論	寺村 絵里子	4	2
経済学研究科	経営管理特論	岡村 龍輝	6	3
経済学研究科	社会保障特論	下田 直樹	8	7
経済学研究科	研究・論文技法演習	影山 純二	3	2
不動産学研究科	不動産研究方法論	斎藤 千尋	3	1
不動産学研究科	不動産数理の基礎演習	表 明榮	4	2
不動産学研究科	日本不動産事情特論	兼重 賢太郎	4	1
不動産学研究科	不動産企画・経営特論	中城 康彦	4	1
不動産学研究科	都市空間マネジメント特論	前島 彩子	4	1
不動産学研究科	不動産会計特論	山本 卓	6	2
合 計			106	64

2 集計結果分析

(1) 応用言語学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	31
回答者数(のべ)	20
回答率	64.5%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか		
3時間以上	2	10.0%
2時間以上3時間未満	5	25.0%
1時間以上2時間未満	7	35.0%
30分以上1時間未満	6	30.0%
30分未満	0	0.0%
ほとんどしなかった	0	0.0%

(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか		
3時間以上	1	5.0%
2時間以上3時間未満	4	20.0%
1時間以上2時間未満	8	40.0%
30分以上1時間未満	7	35.0%
30分未満	0	0.0%
ほとんどしなかった	0	0.0%

(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか		
強くそう思う	14	73.7%
そう思う	5	26.3%
どちらともいえない	0	0.0%
そうは思わない	0	0.0%
全くそうは思わない	0	0.0%

(4) 教員の説明は分かりやすかったですか		
強くそう思う	19	95.0%
そう思う	1	5.0%
どちらともいえない	0	0.0%
そうは思わない	0	0.0%
全くそうは思わない	0	0.0%

(5) 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか												
強くそう思う	15	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>75.0%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>25.0%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	75.0%	そう思う	25.0%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	75.0%											
そう思う	25.0%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	5											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(6) 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか												
強くそう思う	19	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>95.0%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>5.0%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	95.0%	そう思う	5.0%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	95.0%											
そう思う	5.0%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	1											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか												
強くそう思う	13	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>65.0%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>35.0%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	65.0%	そう思う	35.0%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	65.0%											
そう思う	35.0%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	7											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか												
満足	20	<table border="1"> <tr><td>満足</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>不満</td><td>0.0%</td></tr> </table>	満足	100.0%	やや満足	0.0%	どちらともいえない	0.0%	やや不満	0.0%	不満	0.0%
満足	100.0%											
やや満足	0.0%											
どちらともいえない	0.0%											
やや不満	0.0%											
不満	0.0%											
やや満足	0											
どちらともいえない	0											
やや不満	0											
不満	0											

【研究科の総評】

教員の説明は分かりやすかったかどうかに関する質問の回答は、強く「そう思う」が95%であり、ほとんどの院生は肯定的な回答をしていることから、教員の授業の質はある程度評価できると考える。

院生の授業1回当たりの予習時間の平均をみると、1時間以上2時間未満と回答した院生が35%であり、前回調査からは大きく増加している。また、2時間以上と回答した院生も35%と増加している。一方で、1時間未満とほとんどしなかった割合が30%であり、減少している。新型コロナ感染対策をきちんと講じた上での対面授業であったことから院生を指導する教員の指導が綿密に行われている結果であると思料する。

復習時間については、2時間以上と回答した院生は25%、1時間以上2時間未満が40%であり、この点も昨年度と比較すると改善されている。一方で1時間未満と回答している院生も35%であったので、事前学修と授業を経た後の研究の深化のためには、それぞれの授業後の復習が大切であることを学生に対して注意喚起をする必要がある。

教員に求められるのは、院生の研究意欲の向上に意を用い、院生の研究の指針となる情報を的確に提供することと、何よりも教授者自身の日頃の授業における厳しい姿勢であることは論を俟たない。

(応用言語学研究科長 高野敬三)

【学生向けコメント】

応用言語学研究法特論

大学院に入学して、どのように研究を進めていったら良いのか、自分の「感じ」がつかめてきたでしょうか。この授業では修士論文の執筆のための基礎力づくりをおこないました。たとえば、文章の読解と内容の理解、言語学論文における文例の検討、自分の思考の整理と表現、レジュメ・レポートの作成など、本授業ではその方法を学び、練習をしてきたわけですが、すべての研究はこのような普段の作業の積み重ねの上に成るものです。学んだことを自分の修士論文の執筆に役立ててください。

応用言語学特論

院生については、研究の方向性をしっかりと見極めるため、言語学を主軸とした、研究の視点を自ら構築すべきであることを言っておきます。また後期については、それぞれの先生方の研究方法についても紹介していただきます。そしてその研究から、色々なヒントが導かれるように指導します。

日本語教育方法特論

アンケートに回答してくださってありがとうございました。各自の研究分野と直接関係のない方もいたようですが、初めは戸惑いながらも、学期後半には、教授法分野の知識も増え、かなり理解度が深まって行ったように思います。後期は、さらに幅広い分野の研究にも活用できる教育観、学習観について学んでいきますので、柔軟な態度で多くのものを深く理解していただきたいと思います。

日本語教育教材特論

特に課題は出さず、予習・復習に重点を置いてもらいました。翌週の復習で「短期記憶」から「長期記憶」になるよう貢献できたようです。

日本語教育学特論

内容の紹介をするレジюмеを書くスキル、英文文献も含め、文献を探すスキルが上達しました。自分の論文も同じように論理性に注意を払われながら他者に読まれる、ということですから、読み手を意識して論文執筆ができるといいと思います。

日本語学特論

皆さん各自の課題についてきちんと問題点を把握して授業に臨んでいます。後学期はさらに深い探求ができるように、各自のテーマを掘り下げていただきたい。また、単に意見や質問を出し合うだけでなく、意見交換することによって新しい視点が得られるような深いディスカッションができるように取り組んでいきたいと考えています。さらなる積極的な参加を望みます。

翻訳技法特論

みなさん、前期を通して大変よく頑張ってくれました。後期もこの調子で取り組んでください。

(2) 経済学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	50
回答者数(のべ)	36
回答率	72.0%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか		
3時間以上	2	5.6%
2時間以上3時間未満	3	8.3%
1時間以上2時間未満	14	38.9%
30分以上1時間未満	12	33.3%
30分未満	5	13.9%
ほとんどしなかった	0	0.0%

(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか		
3時間以上	0	0.0%
2時間以上3時間未満	6	16.7%
1時間以上2時間未満	9	25.0%
30分以上1時間未満	16	44.4%
30分未満	4	11.1%
ほとんどしなかった	1	2.8%

(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか		
強くそう思う	32	88.9%
そう思う	4	11.1%
どちらともいえない	0	0.0%
そうは思わない	0	0.0%
全くそうは思わない	0	0.0%

(4) 教員の説明は分かりやすかったですか		
強くそう思う	28	77.8%
そう思う	8	22.2%
どちらともいえない	0	0.0%
そうは思わない	0	0.0%
全くそうは思わない	0	0.0%

(5) 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか												
強くそう思う	32	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>88.9%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>11.1%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	88.9%	そう思う	11.1%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	88.9%											
そう思う	11.1%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	4											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(6) 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか												
強くそう思う	33	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>94.3%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>5.7%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	94.3%	そう思う	5.7%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	94.3%											
そう思う	5.7%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	2											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか												
強くそう思う	29	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>80.6%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>16.7%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>2.8%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	80.6%	そう思う	16.7%	どちらともいえない	2.8%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	80.6%											
そう思う	16.7%											
どちらともいえない	2.8%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	6											
どちらともいえない	1											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか												
満足	31	<table border="1"> <tr><td>満足</td><td>86.1%</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>13.9%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>不満</td><td>0.0%</td></tr> </table>	満足	86.1%	やや満足	13.9%	どちらともいえない	0.0%	やや不満	0.0%	不満	0.0%
満足	86.1%											
やや満足	13.9%											
どちらともいえない	0.0%											
やや不満	0.0%											
不満	0.0%											
やや満足	5											
どちらともいえない	0											
やや不満	0											
不満	0											

【研究科の総評】

相変わらず新型コロナウイルス感染収束の見通しは立っていないが、2021年度前学期の研究科の授業は、原則的に、教室・研究室での対面式で行われた。

また、アンケート実施の周知は、前回（昨年度）は主に manaba のコースニュースや授業資料によって行なわざるをえなかったため、十分にその趣旨（意図等）が伝わりきれず、回答率は 57.7%と相当低い数値にとどまったが、今回は講義が対面式で直接伝えることが出来たことから、72.0%と上昇した。

そこでまず、予習時間についてみると、「3時間以上」や「2時間以上3時間未満」との回答も 13.9%あったが、「1時間以上2時間未満」が 38.9%と最も多く、次いで「30分以上1時間未満」が 33.3%と続くが、「30分未満」も 13.9%(1割強)存在することは気にかかるところである。

一方、復習時間については、こちらも「3時間以上」や「2時間以上3時間未満」との回答が計 16.7%あったが、最も多かったのが「30分以上1時間未満」の 44.4%であり、次いで「1時間以上2時間未満」の 25.0%と続き、「30分未満」も 11.1%であった。中には「ほとんどしなかった」と回答した者も 2.8%いた。

日常的な研究を主たる目的とする院生の予習・復習時間としては、この時間数は少ないとの印象は否めない。しかも前回より減少しており、中には「30分未満」や「ほとんどしなかった」院生も少数ながらいることから、今後は授業外学修・研究時間を増やしていく仕掛けや指導が必要になると考える。

次に教員の授業に関する項目では、総じて「強くそう思う」と「そう思う」がほとんどであり（両者を合わせると、ほとんどの項目で約 90%弱を占める）、院生が教員の授業に満足していることがわかる。このことは、院生と教員間に信頼関係が出来つつあることも感じさせる。しかし、「この授業を受けて研究意欲が増したか」の質問に対して、「どちらともいえない」という回答もあったことは、研究科として、その原因究明と併せ、何らかの対応が急務であると思われる。

最後に、全体としてみると、多くの院生が自身の履修・受講する授業科目について概ね満足しているという評価結果であり、よかったと感じている。今回も前回と同様、授業を受講することで研究への意欲が増進したことは確かなようである。総じて意欲や熱意が感じられたという回答もほとんどで、大学院授業担当教員の努力も大きいものと思われる。

以上、アンケート調査した授業科目では、若干の課題もあるように思われるが、多くの院生から良好な評価を受けていると判断可能で、これを今後も継続する一層の努力が望まれると考える。

(経済学研究科長 下田直樹)

【学生向けコメント】

ミクロ経済学特論

前学期は伝統的なミクロ経済学の価格理論が中心でしたが、消費者行動と企業行動を理解することは、経済学の基本の基本です。夏季休暇中に「制約付き最大化問題」をしっかり理解できるようにしてください。

実証分析特論

毎回の課題をきちんと提出した履修者の人たちは、すでに修士論文の執筆に必要な実証分析を、自力で行うことができる実力がついたと信じています。これからも、授業を通じて培った能力を活かして、優れた修士論文を完成し、専門知識を活かして社会で大活躍してくれることを祈念しております。

経済政策特論

日本語文献だけでなく英語文献にも積極的にチャレンジしてほしい。

会計学特論

会計学の基礎知識は、経営学の修士論文を書くうえでは必須なので、本科目をとおして、財務諸表から実際の経営で何が起きているかをある程度推測できる力を身につけましょう。

経営学特論

半年間お疲れ様でした。様々な研究テーマ・背景を持つ方々でしたので、当初試行錯誤してしまいましたが、徐々に学びが蓄積され、相互作用も生まれたと思います。後学期も交代で輪読に加え、一部学生はデータ分析を行いたいと思います。宜しく願いいたします。

経営管理特論

授業では、私自身も Zoom での進め方や課題の出し方を工夫したり、分かりやすい板書を心がけたりするなどしてきましたが、なによりも、みなさんが授業に積極的に取り組んでくれたおかげで実りのある授業とすることができました。ありがとうございました。今後も、みなさんからの要望があれば積極的に取り入れていきたいと思いますので、気兼ねなく声を上げてください。後期も頑張っていきましょう！

社会保障特論

前学期は毎回、真面目に授業に取組み、よくがんばってこられたと思います。日頃から真面目に学修・研究していることは、授業中の質問内容からもわかりましたし、課題への解答からも、そのことはよく感じられました。後学期もその調子でがんばってほしいと期待しますが、後学期には引き続き、事前に manaba に教材・資料をアップしますので、それによく目を通したうえで、授業に参加することはもちろん、質問内容等も考えてきてください。その意味で後学期には一層、授業外の学修（研究）時間を増やしてください。また、授業の内容が、直接、ご自身の研究テーマと関係ないように思われるケースでも、必ず何らかの形で係わっていますので、その点をよく理解しながら、引き続き、授業に臨んでください。

研究・論文技法演習

半期お疲れ様でした。後期もよろしく願います。

(3) 不動産学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	25
回答者数(のべ)	8
回答率	32.0%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか		
3時間以上	0	0.0%
2時間以上3時間未満	1	12.5%
1時間以上2時間未満	3	37.5%
30分以上1時間未満	3	37.5%
30分未満	1	12.5%
ほとんどしなかった	0	0.0%

(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか		
3時間以上	0	0.0%
2時間以上3時間未満	0	0.0%
1時間以上2時間未満	6	75.0%
30分以上1時間未満	2	25.0%
30分未満	0	0.0%
ほとんどしなかった	0	0.0%

(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか		
強くそう思う	6	75.0%
そう思う	1	12.5%
どちらともいえない	1	12.5%
そうは思わない	0	0.0%
全くそうは思わない	0	0.0%

(4) 教員の説明は分かりやすかったですか		
強くそう思う	6	75.0%
そう思う	1	12.5%
どちらともいえない	0	0.0%
そうは思わない	0	0.0%
全くそうは思わない	1	12.5%

(5) 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか												
強くそう思う	5	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>71.4%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>14.3%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>14.3%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	71.4%	そう思う	14.3%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	14.3%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	71.4%											
そう思う	14.3%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	14.3%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	1											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	1											
全くそうは思わない	0											
(6) 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか												
強くそう思う	6	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>75.0%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	75.0%	そう思う	12.5%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	12.5%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	75.0%											
そう思う	12.5%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	12.5%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	1											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	1											
全くそうは思わない	0											
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか												
強くそう思う	6	<table border="1"> <tr><td>強くそう思う</td><td>75.0%</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>25.0%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>そうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>全くそうは思わない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	強くそう思う	75.0%	そう思う	25.0%	どちらともいえない	0.0%	そうは思わない	0.0%	全くそうは思わない	0.0%
強くそう思う	75.0%											
そう思う	25.0%											
どちらともいえない	0.0%											
そうは思わない	0.0%											
全くそうは思わない	0.0%											
そう思う	2											
どちらともいえない	0											
そうは思わない	0											
全くそうは思わない	0											
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか												
満足	6	<table border="1"> <tr><td>満足</td><td>75.0%</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>不満</td><td>0.0%</td></tr> </table>	満足	75.0%	やや満足	12.5%	どちらともいえない	12.5%	やや不満	0.0%	不満	0.0%
満足	75.0%											
やや満足	12.5%											
どちらともいえない	12.5%											
やや不満	0.0%											
不満	0.0%											
やや満足	1											
どちらともいえない	1											
やや不満	0											
不満	0											

【研究科の総評】

回答率が 32.0%と昨年比 50%以上低くなった。昨年は遠隔授業で、manaba を通じて授業とアンケートが連続的であったことが高い回答率につながっていたことも要因の一つと史料するが、アンケートの趣旨の説明と協力の要請方法を改善する必要がある。

授業方法の変更もあり、アンケート結果を昨年度と単純に比較することは難しいが、以下のような変化が見られた。

改善された点として、教員による授業目的の説明 (45.5%→75.0%)、教員の説明の分かりやすさ (40.9%→75.0%)、教員の授業に対する意欲や熱意 (34.1%→71.4%)、教員の学生に対する対応 (38.6%→75.0%)、研究に対する意欲の高まり (40.9%→75.0%)、授業に対する満足度 (45.5%→75.0%) があり、いずれも大幅に改善した。遠隔授業によらざるを得なかった 1 年間を経験して対面授業のありがたさを実感し、対面授業の良さを体現する授業を行う素地が教員、学生双方にあったものとする。

反対に悪くなった点として、予習時間について、「3 時間以上」が 11.4%→0.0%、「2 時間以上 3 時間未満」が 22.7%→12.5%と減少する一方、「1 時間以上 2 時間未満」が 20.5%→37.5%、「30 分以上 1 時間未満」が 4.5%→37.5%と増加している。「ほとんどしなかった」が 22.7%→0.0%になっている点は評価できるものの、全般的に自律的な学修姿勢が後退した。昨年は遠隔授業の不十分さを補うべく長時間の予習をしていたと考え、対面授業になったことで得られた上記の改善点と反比例して予習時間が短くなっている。

復習時間についても予習時間と同様、2 時間以上と 30 分未満が 0%になる一方で、中間的な長さに集中するようになっている。

本アンケートの対象学生は主として 2021 年度入学の 1 年次生で、入学までの背景が多様で、学修意欲、専門知識、パソコンスキル、語学力などが様々である。これら背景の違いによる学修上の課題は、対面授業の中で適宜補完できることが、授業評価の全般的な高まりにつながったと考える。一方で、有意な修士論文を作成するためには「授業を聞いて分かる」に留まることなく、深く考えて学の本質に迫る訓練が必要で、予習復習がその場にほかならないことを認識したい。

(不動産学研究科長 中城康彦)

【学生向けコメント】

不動産研究方法論

1 年の前学期の時点ではまだ実感のわかないことがあったと思いますが、後学期にはテーマ発表をすることになるので、その準備に、この授業で学んだことを生かしてもらえるといいです。大学院の良いところは、教員と学生が近いところです。あの時わからなかったことがある日、大事であることがわかったりして、そういう時に、その話をした先生にまた聞いてみるができるのも大学院です。教室だけでなく、普段から議論するような姿勢で研究を深めてください。

不動産数理の基礎演習

指摘された問題点、「たまにスピードが速かった」、「授業で書くところがある時 スピードが遅くして欲しい」という意見については、今後はもっとこのような問題点を意識してより丁寧に授業を進めることで受講者にとってはもっと有意義な授業になるように頑張りたい。

日本不動産事情特論

授業評価アンケートにご協力いただいた受講生の方、回答ありがとうございました。アンケートの評価結果は高いものとなっていましたが、今後とも、さらにより良い講義にしていきたいと考えています。

不動産企画・経営特論

学際学問である不動産学研究を行って修士論文を作成する入り口部分の授業と位置付けられていることから、不動産学を構成する、法学、経済学、建築学、経営学を網羅的に学修し、随時に各学問の知識を確認するとともに、それらを横断的に組み合わせる授業を展開した。併せて、学修した知識を PC で検証することで知識の定着と、成果の見える化を行った。受講生は全員、真摯に取り組み、初期の学修効果を達成してくれたことに敬意を表する。

都市空間マネジメント特論

不動産の学修題材は都市空間にあふれています。この授業を通じて、都市空間の受け皿とそこを利用する人たちの特徴を考えるきっかけに気付いてもらえれば幸いです。

不動産会計特論

前期授業への参加、お疲れ様でした。本授業の内容が、皆さんの研究の進展に、少しでも参考になったところがあれば、うれしい限りです。良い修士論文を作成するためには、十分な時間をかける必要があります。M1 の早い段階から作業に着手して下さい。十分な学術文献(国際ジャーナルを含む)を収集、整理し、読み込みを行って下さい。このような地道な作業の延長上に、自分自身の研究課題を明確にするようにして下さい。ご質問等があればいつでも対応します。皆さんの今後のご活躍を期待しています。
